

# 第5回「みやざき活性化フォーラム」意見交換概要

九州財務局 宮崎財務事務所

## 事業者の状況

<b>業 況</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● コロナ禍で経済が止まっていたが、行動制限緩和等で今年になって一気に経済が動き出してきた。【IT業、飲食業、小売業、経済団体】</li><li>● 業種にもよるが借入で繋いできたところが、これ以上の国の支援は期待できず一定の淘汰があると思われる。【経済団体】</li><li>● 資金繰り支援が行き届いて資金がダブっている取引先もある一方、コロナ禍で資金が底をついた先もある。【金融機関】</li><li>● 経済が動き出して今からだという機運はあるものの、物価上昇を価格転嫁できず厳しい状況にある中で、コロナ融資の返済も迫り、資金繰りの窮屈感が非常に高まっている。【経済団体】</li><li>● 現状の課題が、コロナのフェーズが終わってきていて、原油高、原材料価格の高騰になってきていると思う。【金融機関】</li><li>● コロナ禍の需要の変化などで事業者の多くが厳しい業況であった中、事業を見直していた先は、変化に柔軟に対応している先もあるなど事業者の復活力に違いが見られる。【IT業、金融機関】</li><li>● 厳しい中でも事業再構築補助金などの様々な補助金や支援を活用し、前向きに取り組む経営者も多い。【有識者】</li></ul>
<b>雇 用</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● サービス業、建設業が不足。何をしても採用できないという企業もある。【経済団体】</li><li>● ハローワークは全く応募がないがネット募集では多くの応募があった。応募者は、勤務条件（残業、休暇等）を意識している。また、県内外から副業社員を多く採用。【製造業】</li><li>● 経営者が福利厚生など働きやすい環境を整備してアプローチしている企業は採用も可能になってきている。【経済団体】</li><li>● 新型コロナの影響で雇用環境も変わり、地元での就職を希望する若者が増加している。【経済団体】</li></ul>
<b>創 業</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 今年度は昨年度の1.5倍くらいのスピードで相談を受け支援も順調に進んでいる。【政府系金融機関】</li><li>● コロナ禍で会員企業が一時期減ったものの、若い世代が創業し積極的に会員になったことにより結果的に会員が増えた。【経済団体】</li><li>● 宮崎は食以外の分野での支援が少ないので、他の分野でスタートアップしたくてもできない。【製造業】</li></ul>
<b>経営戦略</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 企業側も経済活性化のため何をすべきか十分な議論が必要。個別の具体的な対策も必要だが、これからの経済の方向性を見極めたうえで企業や経営者の役割を深く考え戦略を練っていく必要がある。【製造業】</li><li>● サプライチェーンの下側、マーケットに近い方では、様々な繋がりを持つ金融機関に販売先の仲介をお願いする、また、サプライチェーンの上側、作る側では、原価を抑えてマーケットに出すためのまとめ買いの資金提供を金融機関をお願いする、といったサプライチェーンの場所に依りて必要な支援を事業者が説明できる力を持たなければならない。【IT業】</li><li>● マクロ視点で言えば、産学官で色々な連携を組みながら、今ある資源や地の利を活かして形成していく目指すべき産業構造ビジョンを作った上、将来の産業構造をどうしていくのか、今からどのような産業を伸ばしていくのか等の議論を行っていくことが重要。【IT業】</li></ul>
<b>意識改革</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 宮崎県の現状も未来も厳しいことは実感している。だからこそ誰かに夢を語ってほしい。段々と気持ちが沈んでいく会議ではなく、やはり参加者の気持ちが盛り上がるような仕掛けや企画も忘れずに、明日、明後日、そして将来に希望が持てるようなメッセージを参加者から是非発信してほしい。【製造業】</li><li>● 経営を取り巻く環境は厳しいが、コスト高を価格転嫁するというのではなく、「従業員の幸せのために」販売価格を見直すという経営者の強さを示す必要がある。【飲食業】</li></ul>

## 第5回「みやざき活性化フォーラム」意見交換概要（続き）

### 事業者支援の状況や意見・要望

補助金の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍の中、補助金も増えたが、補助金を知らない経営者が多い。【経済団体、IT業】</li> <li>● 零細企業はインターネットの活用ができない経営者が多く、手取り足取りの支援をしないといけない者が非常に多い。【経済団体】</li> <li>● 企業のIT化を支援するための補助金を出すなど、行政がバックアップをする仕組みが必要。【金融機関】</li> </ul>
事業承継	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金融機関には後継者の育成・確保、M&amp;Aを含む事業承継などにおけるコーディネート機能を期待。【経済団体】</li> <li>● 小規模・零細企業の事業者からは利益が今後も見込めないなら廃業したいという意向もあり、事業継続が前提の支援を続けるのか、それとも事業引継を視野に入れた支援が良いのか悩ましい。【金融機関】</li> </ul>
ビジネスマッチング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ITの発達により様々な企業によるビジネスマッチングが増えてきて、すごく変わってきた。【IT業】</li> <li>● 宮崎の企業は特に食品産業に高い技術を持つので、金融機関が持つ情報を活用し、そうした高い技術力を生かしたビジネスマッチングの実現に期待。【経済団体】</li> <li>● 宮崎は食以外の分野での支援が少ない。若い人たちを応援する仕掛けを作って欲しい。コンテスト形式などの事業者支援策を講じ、新しい事業やアイデアに投資できる仕組みを作って、分かりやすくすることで、県外からもチャレンジしにくるのではないかと。【製造業】</li> </ul>
産官学金の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活性化の目的が「地域で幸せに暮らしたい」「相応の収入が得られて、やりがいのある仕事でなければいけない」であることを踏まえると、県民所得の低さが課題であるため、県民所得の向上が更に目指すべき取り組みではないか。【経済団体】</li> <li>● 移住者の事業が一定の評価を得るまで支援機関・町単位では限界。事業性を高めるための仕組みを何か連携できないか。【有識者】</li> <li>● 地域の課題解決や資源活用について自由に議論をする場、また、議論により生まれたソーシャルビジネス的なアイデアをもとにチャレンジする者に対して資金面や人材面で支援する仕組みが必要。【製造業】</li> <li>● 人材育成のために、意欲のある学生のためのファンドなど「教育」に的を絞った支援が必要。【IT業】</li> <li>● 新規成長分野、新規創業や第二創業など新しい分野に果敢に挑戦しようとするところには、エクイティミックスによって大胆なリスク共同体としての共創型の支援が必要ではないか。【飲食業】</li> </ul>

### 金融機関の事業性評価等に対する意見・要望

融資対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この2年半で心が折れた倒産もあり取引先が減少する中で返済が始まった。返済の据置期間の長期化等を求めたい。【小売業】</li> <li>● アンケートにおいて、金融機関の対応は、寄り添う形で積極的にコミュニケーションをとり融資制度や支援策を説明する対応が増えた、一方で大変厳しく冷たくなったとの回答がそれぞれあった。職員、支店レベルでの対応の違いは現実としてあるようだ。【経済団体】</li> </ul>
事業性評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金融機関は担保主義から事業性評価での融資を積極的に行う方針としているが、金融機関の職員レベルでそれが本当に浸透しているのかが疑問。未来を見据えた投資をする際の融資に対して、金融機関がどれだけ支援してくれるか見えない。【サービス業】</li> <li>● 中期経営計画において事業性評価の取組みを掲げ、事業の将来性を見る目利き力によって担保や保証に頼らない融資に取り組んでおり、事業性評価の取組みは職員に浸透していると考えている。【金融機関】</li> <li>● コロナ禍で事業会社別のポートフォリオ、取引先、人員の割振り等が変化。金融機関には事業性の変化への理解、効率的な経営に向けたDX等の支援、特に新規事業の変化への理解を求める。【観光業】</li> </ul>